

関係団体連携して初乗り運賃発生に伴う負担軽減を

直江津・頸城の会が総会で活動方針決める

「在来線と地域のあり方を考える直江津・頸城の会」の第7回総会が30日、学びの交流館で行われました。

今回は北陸新幹線が開業して初めての総会です。総会では仲田紀夫会長が挨拶し、来賓も祝辞を述べました。

このなかで並行在来線問題に取り組んできた人たちは北陸本線、信越線の並行在来線に対する国やJRの責任を求めてきたこれまでのたたかひの経過を振り返るとともに、開業後、より明確になった初乗り運賃の発生に伴う料金の値上げなどの問題を解決するために全力をあげようと訴えました。

新年度活動方針案の審議では、「初乗り運賃発生に伴う負担軽減を」「新幹線と並行在来線の接続は不便だ。改善を」「切符購入の不便を解消すべきだ」「身障者が使いやすい上越妙高駅かどうかの点検を」などの発言が続きました。提案された方針でも会場での発言でも新幹線開業後の課題に取り組む強い意志を感じました。

関係団体などと連携して 利便性向上へ

決められた新年度の活動方針は6項目ですが、そのうち主な4項目について掲載します。

- ① 各地域の会との連携の強化。「公共交通の要である鉄道を守り、持続的な利便性のある鉄道をめざしす1点で協力・協同する」この点で全ての団体、個人との連携を活動の柱とし、公共交通としての確立を求めます。
- ② 開業後のJR線、トキ鉄線、ほくほく線の利便性、初乗り運賃制度の研究、調査等を地域の会、関係地域、PTA、学校などと協力、共同して考察します。
- ③ えちごトキめき鉄道に対しては、市民への情報提供や説明責任を十分果たし、利便性向上、利用者への安全、安心、安価、福祉向上に努めるよう求めます。



④ ほくほく線の利用促進のため、関係諸団体との意見交換、共同行動及び北越急行株式会社への利便性向上の要請行動を行います。



【ハハコグサ】キク科の越年草。漢字で「母子草」と書きます。名前の通り、やさしい感じのする花です。「春の七草」のひとつ。黄色の花はいまでも咲いています。花言葉は、「永遠の想ひ」。吉川区にて撮影。

市議会主催の議会報告会でパワーポイントも活用

市議会主催の議会報告会、意見交換会が27日、28日とありました。このうち、28日の公民館高士分館での会に参加してきました。

議会報告は3月議会の報告です。報告では初めてパワーポイントを使って議長が3月議会の概要を報告しました。いいことだと思います。私は、議会史上初めての当初予算の組み替え動議提出、住民投票の提案に係わった者として、これらがどう説明されるのかに注目しましたがあっさりとしたものでした。また、これらについて質問が出た時に、場合によっては発言するつもりでいました。これらに関する市民からの質問はありませんでした。

報告に対する質問や意見交換の中では、「公の施設の再配置で廃止が打ち出されている高士スポーツ広場を残してほしい」「新総合事業は社会福祉協



議会への丸投げでないのか。車がないと人が集まらない」「公民館は使用料がとられる。13区のコミュニティセンターは無料だ。これでいいのか」「防災士を増やしてほしいと言われるが、養成には6万円かかるし、ヒマデもある。負担軽減できないか」「人口減少は我々の一番の心配だ。議会としてどう取り組んでいくのか」などの発言がありました。続報します。



No.1710 2015.6.7
 発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三五八回

蛍場へ

かつては八世帯で五〇人近くも住んでいたことがある私のふるさと、吉川区蛍場。先月の途中から二世帯二人となりました。伯父夫婦がいたときと比べてさみしくなったり、ろうななどと勝手に思いながら、先月の下旬、寄ってみました。

村屋から市道を上って行き、まず目に入ったのは、畑仕事をしていた八〇代のお母さん、Hさんの姿です。市道のすぐそばで仕事をされていましたので、車を止めて、「どうしてなるね。元氣かね」と声をかけると、「あら、おまえさんだね。おばあちゃん元氣でいてくんかったかいね」という言葉が返ってきました。

伯父が病氣を出し、救急車で病院へ運んでもらった際には、消防署と連絡をとってもらうなどHさんと帰省していた息子さんにはたいへんお世話になりました。私から、「東のどちやのときには世話になったが、ありがとうございました」と言うと、伯父の家から連絡が入ったときのことなど当日の朝の模様を詳しく語ってくださいました。

私とHさんが話をしていた場所からは釜平川の向こう側にある標高二〇〇以上の蛍場の山々がよく見えます。今年は雪消えが早く、山肌はもうすっかり緑色になっています。「今年はウドなんか、早くでかくなっちゃってさね……」と言いながら、Hさんは山菜採りの様子から語りはじめ、昔のことを振り返ってくださいました。

耕作条件が悪かったので、いまは、すべて耕作放棄地になってしまっています。川の手前や川向こうには蛍場の大東、東、大西、そしてわが家の田んぼがありました。Hさんは田んぼに使う水を確保するために小さなため池があったこと、私の父が朝っぱら、田んぼの水などの状態を見てまわるときに、よく歌を歌っていたことなどを教えてくださいました。それに呼応して、私もロープを使って耕耘機の上げ下ろしの手伝いをしたことなどの思い出を語りました。

Hさんと別れてから、わが家があったところへ行き、再び車を止めました。デジタルカメラを持って、わが家の牛舎があった場所に立つと、下の方に孟宗竹の子が一本ありました。わが家の住宅のあったところはほとんど市道の下になっていますが、そこから下の田んぼへ行く狭い道が昔のままの形を残しています。「そういえば、子どもの頃、熟すのを楽しみにしていたスモモの木があったはずだ」そう思っよく見ると、当時のままの細い幹のスモモの木が残っていました。これはうれい発見でした。

伯父の家の方を見てびっくりしたのは、「くねばら」用の木の枝です。市道半入沢線から伯父の家に入る、一〇以上の道の入り口付近のハサに立てかけてあったのです。キヌウリやヨウゴなどは地面ではなく、ツルをはわせるものが必要です。「くねばら」はそのためのもので、畑の畝（うね）に差し込んだときの木の枝全体のことを言います。現在は、合成樹脂のトンネル支柱とネットの時代となり、ほとんど使われていませんが、伯父の家ではずっとこれを使ってきたんですね。

伯父の仕事ぶりについては、前にも「春よ来い」に書いてきましたが、「くねばら」用の木はきちんとヒモでくくってあって、すぐにでも畑に持っていかれるようになっていました。これはまちがいがなく伯父の仕事です。まあ、最後の最後まで丁寧な仕事をしたものだと思えて感心してしまいました。

この日、蛍場を訪問したのは夕方でした。整然と立てかけてある「くねばら」用の木の姿を見て、伯父が近くにいるような気がしました。ふるさととは住民が何人になろうとふるさとです。そこに立てば元氣が出ます。これからも時どき行こうと思います。

さわやかな美しさに感銘しました

頸城区の希望館で開催されていた秋山美峰さんの水墨画、水彩画の個展を2日、観てきました。

秋山さんは旧頸城村北四

ツ屋出身で72歳。現在は信州は安曇野を舞台に活動しておられます。

希望館では白川郷や安曇野、北アルプスの山々、それに頸城三山などの美しい風景を描いた作品を中心に展示されていました。私は

素人ですので、

詳しいことはわかりませんが、展示されていた作品からは油絵とはちがった爽やかな美しさを感じました。

会場には秋山さんの頸城村時代の友人の方々などが訪れ、楽しい会話はずんでいました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月27日(水)	6月3日(水)
上越南消防署	0.046	0.043
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.047	0.057
東頸消防署	0.047	0.056
高士分遣所	0.053	0.047
名立分遣所	0.056	0.060

グミや桑の実はいまが旬、懐かしい美味しさをもう一度

ここ1週間ほどいい天気が続く、グミや桑の実、キイチゴなどが一番美味しい時期になってきました。

このうちグミはわが家の庭にも

大きな木があって、たくさんなりました。グミは最盛期になると毎日、どんどん赤くなっていきます。朝とっても夕方にはまた赤い実をとらないと間に合わないくらいです。

桑の実も今年は美味しいですね。私の事務所近くにはかつて桑を栽培していた畑があり、次々と実が黒く熟していきます。いずれも懐かしさをもった美味しい味です。

写真は、グミを食べている母です。「どうだね、味は」と訊くと、「うんめがど、これは」と言っていました。

